



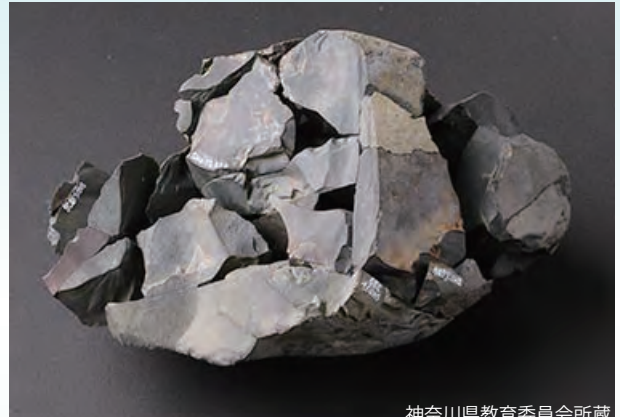
1. 近世 畝間状遺構



2. 旧石器時代 調査区全景 (L1H上部)



3. 旧石器時代 出土遺物
神奈川県教育委員会所蔵



4. 接合資料
神奈川県教育委員会所蔵

● 主な調査成果

近世では、畝間状遺構1、土坑7、溝2、中世～奈良・平安時代、弥生時代、縄文時代では、土坑が各1基発見されたのみでした。近世の畝間状遺構は、宝永火山灰をすき込んで処理した跡と思われます。

旧石器時代の調査では、ローム層のBB0相当層から細石刃を主体とした石器群が発見され、約2000点の石器が出土し、6箇所石器集中地点が確認されました。石器集中地点からは、炭化物が検出され、放射性炭素C¹⁴年代測定の結果、およそ17500年前と判明しました。細石刃は、鹿角や骨、硬木などのシャフトに装着して使用された替え刃のような石器で、本遺跡は細石刃を大量生産した製作址と思われます。整理作業を進める中で、細石刃を剥出した細石刃石核が、5点も接合した接合資料が得られ、細石刃作成の手がかりとなる一級の資料となりました。

- 調査期間 2016年11月16日～2017年3月15日
2017年6月16日～2017年7月13日
- 事業者 中日本高速道路株式会社
- 調査原因 新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、奈良・平安、弥生、縄文、旧石器
- 所在地 秦野市菖蒲、八沢
- 遺跡位置 小田急小田原線渋沢駅から西に約2.4kmの丘陵尾根上

